

SONY®

3-800-610-02 (1)

⚠️ 警告 安全のために

ソニー製品は安全に十分配慮して設計されています。しかし、電気製品はすべて、まちがった使いかたをすると、火災や感電などにより人身事故になることがあります。事故を防ぐために次のことを必ずお守りください。



安全のための注意事項を守る

この取扱説明書と別冊の「取り付けと接続」の注意事項をよくお読みください。

道路交通法に従って安全運転する

運転者は道路交通法に従う義務があります。前方注意をあこたるなど、安全運転に反する行為は違法であり、事故やけがの原因となることがあります。

- 車外の音が聞こえる程度の音量で聞く。
- ナビゲーションでのルート案内時は、実際の交通規制に従って運転する。

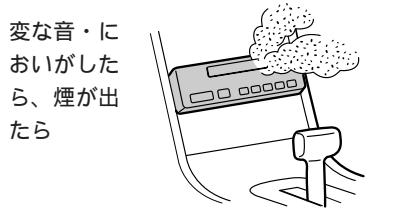
定期的に点検する

1年に1度は、電源コードに傷みがないか、振動により配線がはずれていなか、接続部分が車体と接触していないか、などを点検してください。

故障したら使わない

動作がおかしくなったり、キャビネットや電源コードなどが破損しているのに気づいたら、すぐにお買い上げ店またはソニーサービス窓口に修理をご依頼ください。

万一、異常が起きたら



- 安全な場所に車を止める
● 電源を切る
● お買い上げ店またはソニーサービス窓口に修理を依頼する



下記の注意を守らないと火災・感電により死亡や大けがの原因となります。

取り付けはお買い上げ店に依頼する

本機の取り付けには専門知識が必要です。

万一、自分で取り付けるときは、別冊の「取り付けと接続」の説明に従って、正しく取り付けてください。正しい取り付けをしないと、火災や感電の原因となります。

内部に水や異物を落とさない

水や異物が入ると火災や感電の原因となります。万一、水や異物が入ったときは、すぐに電源を切り、お買い上げ店またはソニーサービス窓口にご相談ください。

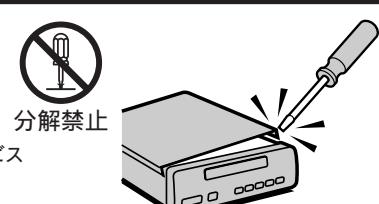


下記の注意を守らないとけがをしたり自動車に損害を与えることがあります。

分解や改造をしない

火災や感電、事故の原因となることがあります。

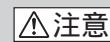
内部の点検や修理はお買い上げ店またはソニーサービス窓口にご依頼ください。



警告表示の意味
取扱説明書および「取り付けと接続」、製品では、次のような表示をしています。表示の内容をよく理解してから本文をお読みください。



この表示の注意事項を守らないと、火災・感電などにより死亡や大けがなど人身事故の原因となります。



この表示の注意事項を守らないと、感電やその他の事故によりけがをしたり自動車に損害を与えたことがあります。

注意を促す記号



行為を禁止する記号



自律航法ユニット

取扱説明書

お買い上げいただきましてありがとうございます。



電気製品は安全のための注意事項を守らないと、火災や人身事故になることがあります。

この取扱説明書および別冊の「取り付けと接続」には、事故を防ぐための重要な注意事項と製品の取り扱いかたを示しています。この取り扱い説明書および別冊の「取り付けと接続」をよくお読みのうえ、製品を安全にお使いください。お読みになったあとは、いつでも見られるところに必ず保管してください。

取り付けと接続は、別冊をご覧ください。

XA-150S

Sony Corporation ©1995 Printed in Japan

使用上のご注意

自律航法の精度向上について

- 初めて本機を取り付けたときや、別の車に本機を付け替えたときなどに、画面に「初期化中」と表示が出て、しばらくのあいだ現在位置表示の誤差が大きくなることがあります。これは、車種によって異なる車速パルスの種類を自動的に算定したり、タイヤ径などによって生じる車速パルスの誤差を補正したりといった計算を行っているため、故障ではありません。

正常に動作するまでのあいだ、約30分間、GPS衛星からの電波を受信した状態で走行してください。リセットボタンを押した後や、自車マークが黒の状態で電源を切って再び電源を入れた後なども同様に操作してください。

- 車のキーをON位置にしてすぐに車を発進させると、自車マークが実際の走行方向と違う方向に進むことがあります。この場合、しばらく走行すると正しい位置に表示されます。が、測位の精度を上げるためにには、約5秒間停車することをおすすめします。

この装置は、第2種情報処理装置(住宅地域又はその隣接した地域において使用されるべき情報処理装置)で住宅地域での電波障害防止を目的とした情報処理装置等電波障害自主規制協議会(VCCI)基準に適合しています。しかし、本装置をラジオ、テレビジョン受信機に近接してご使用になると、受信障害の原因になることがあります。取扱説明書に従って正しい取り扱いをしてください。

地図ディスクについて

- 本機で使用する地図ディスクは、必ずナビゲーションシステム研究会のシンボルマーク(ナビ研マーク)がついている地図ディスクをお使いください。ナビ研マークがついていない地図ディスクは、本機で使用することができません。



ナビゲーションシステム研究会統一マーク

マップマッチングは、マップマッチング用の道路データが収録された地図ディスクを使用している場合のみ働きます。マップマッチングに対応していない地図ディスクを使用している場合には、画面の左上にマップマッチングエラーリンゴが表示され、マップマッチングは働きません。



マップマッチングエラーリンゴ

また、マップマッチングに対応した地図ディスクを使用していても、対応した道路データが収録されていない地域に自車位置がある場合には、マップマッチングは働きません。

- お使いになっている地図ディスクが対応している機能を知りたいときは、メニューの「ディスク情報」をご覧ください。
- 以下の地図ディスクをお使いいただくと本機のすべての機能を用いることができます。
「ナビソフトドライブマップ 全国版IV」
(株)ゼンリン
地図ディスクについて詳しくは、お買い上げ店にご相談ください。

ソニー株式会社 〒141 東京都品川区北品川6-7-35

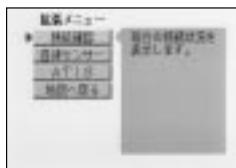
お問い合わせはお客様ご相談センターへ
東京(03)5448-3311 名古屋(052)232-2611 大阪(06)539-5111

接続を確認する

自律航法ユニットが接続されているかを確認することができます。

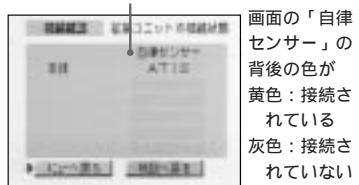
1 拡張ボタンを押す

拡張機能メニュー画面になります。



2 「接続確認」に▶を合わせて、決定ボタンを押す

自律航法ユニット



ちょっと一言

自律航法ユニットの接続は起動時の画面でも確認できます。自律航法ユニットが接続されていると以下のよ

うなマークが表示されます。



自律航法ユニット接続中

測位システムについて

自律航法について

GPS衛星からの電波が正しく受信できないとき、センサーの働きによって自車位置を検出し、地図画面上に表示する機能です。正確な測位のためには、自律航法ユニットを正しく取り付ける必要があります。詳しくは「取り付けと接続」説明書をご覧ください。

ご注意

- リセットボタンを押したあとや、自車マークが黒の状態で電源を切って再び電源を入れたときは、GPS衛星を受信するまでの間、自律航法は働きません。
- GPS衛星からの電波を受信せずに自律航法のみで測位している状態で長時間走行すると、自車マークが道路からはずれて表示される場合があります。

マップマッチング

誤差によって実際に走行している道路からはずれて自車マークが表示される場合、そのずれを補正して必ず道路上に自車マークを表示させる機能です。

この機能は、使用する地図ディスクにマップマッチング用の道路データが存在するときのみ働きます。

ご注意

マップマッチングを正しく機能させるためにも、自律航法ユニットは正しく取り付けてください。

センサー情報を確認する

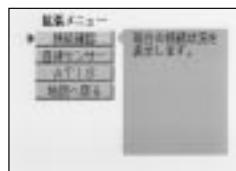
自律航法ユニットが正しく動作していることを確認するには、センサー情報画面での操作を行ってください。

ご注意

- 確認項目が1つでも異常を示したときは、お買い上げ店に必ずご相談ください。
- 運転者が自律航法ユニットの接続確認を行うことは危険です。必ず助手席の同乗者に行ってもらってください。

1 拡張ボタンを押す

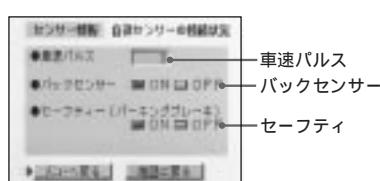
拡張機能メニュー画面になります。



2 「自律センサー」に▶を合わせて、決定ボタンを押す

3 「センサー情報」に▶を合わせて、決定ボタンを押す

画面の確認は、必ず助手席の同乗者に行ってもらってください。



車速パルス：この画面を表示した状態で車を安全な場所でゆっくり走らせて、数字が変化することを確認してください。
パックセンサー：シフトレバーがリバースの位置にあるときに、ランプが赤く点灯することを確認してください。
セーフティ：パーキングブレーキを引いて車が停車している状態でON側のランプが赤く点灯していることを確認してください。

ご注意

確認のためのランプが点灯するまで数秒間かかる場合があります。

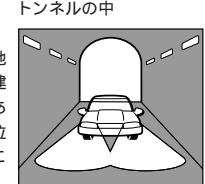
誤差について

GPS衛星自体による誤差

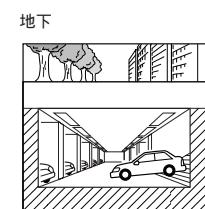
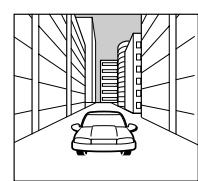
本機では、3個以上のGPS衛星からの電波を受信する自動的に現在地を測位しますが、場合によっては約200メートルの誤差を生じことがあります。また、GPS衛星は米国国防総省によって管理されていますので、意図的に測位精度が変更され、誤差が大きくなることもあります。このような場合は、実際に走行している道と地図上での自車マークの位置が完全には一致しなくなり、実際に走行している道とは異なる道路に自車マークが表示されることがあります。

衛星からの電波が受信できないとき

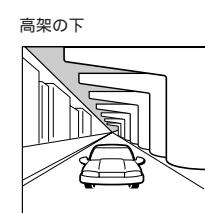
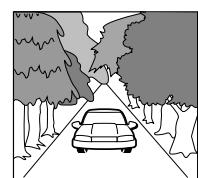
GPS衛星からの電波がとどかないトンネルの中や地下、電波をさえぎる高い建物や樹木などの障害物がある場合には、実際の車の位置と自車マークがずれることがあります。



高層ビルの間



密集した樹木の間



自車位置を修正する

フェリーなどで移動したあとに本機を使用すると、GPS衛星からの電波を受信するまで、自車マークが現在位置と一致しないことがあります。このような場合は、自車位置修正を行うことをおすすめします。

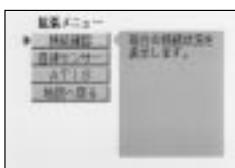
また実際に走行している道から、自車マークが大きくなっている場合や、本機の電源を切って走行したあと再び電源を入れた場合にも、自車位置を修正することをおすすめします。

ご注意

以下の操作は走行中に行なうことはできません。必ず安全な場所に車を停車させてから、操作してください。

1 拡張ボタンを押す

拡張機能メニュー画面になります。



2 「自車位置修正」に▶を合わせて、決定ボタンを押す

3 「自車位置修正」に▶を合わせて、決定ボタンを押す

自車位置修正画面になります。



4 ジョイスティックで+マークを正しい自車位置に合わせ、決定ボタンを押す

自車マークは色が変わり、+マークの位置に表示されます。



5 ジョイスティックを左右に倒して自車マークの向きを進行方向に合わせ、決定ボタンを押す

地図画面に戻ります。

自車位置の修正を中止するには

現在地ボタンまたは拡張ボタンを押します。

スタンバイ機能を使う

自律航法ユニットを接続すると、「スタンバイ機能」が使用できます。スタンバイ機能とは、モニターのPOWERボタンとナビシステムの電源連動を設定するものです。

メニュー「各種設定」の「システム設定」に、あらたに「スタンバイ機能」ON/OFF設定項目が表示されます。

スタンバイ機能ON：モニター電源を切ってもスタンバイ機能が働き、ナビシステムが動作します。

スタンバイ機能OFF：モニター電源を切るとナビシステムの電源も切れます。

スタンバイ機能をONに設定しておくと、次のようなときに便利です

通常、ナビゲーションが不要なときに、モニターのPOWERボタンを押して電源を切るとナビシステムも切れますが、スタンバイ機能をONに設定しておくと、ナビシステムはスタンバイ状態で測位のみ動作しています。ナビゲーションが必要になった時にモニターのPOWERボタンを押して電源を入れると、すぐに測位ができます。

ご注意

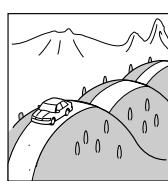
- お手持ちのモニターなどを接続して、リモコン受光部XA-180R(別売り)を使用している場合にも、スタンバイ機能の設定は有効ですが、お手持ちのモニターの電源ボタンと本機の電源は連動はしません。必ずリモコン受光部XA-180RのPOWERボタンで電源を入/切してください。
- スタンバイ状態ではリモコンボタンを押しても、ナビシステムは動作しません。再度モニターのPOWERボタン(リモコン受光部のPOWERボタン)を押して電源を入れてください。
- 一部の車ではキーの位置に関係なく常に通電していますので、このような場合はバッテリー消耗を防ぐためにスタンバイ機能を必ずOFFにしてお使いください。

誤差が大きくなるとき

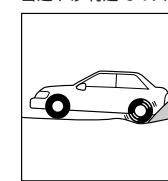
次のような状況では、自律航法やマップマッチングが正しく働かない場合があります。

走行状態が自律航法で正しく測定できない

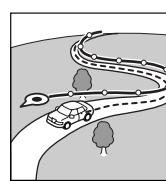
勾配の急な山道



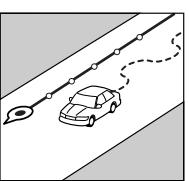
雪道や砂利道でのスリップ



ヘアピンカーブ

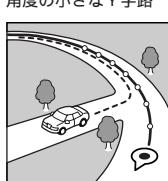


蛇行運動

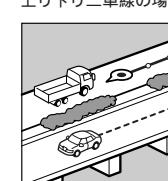


マップマッチングで自車マークが他の道路にのってしまう

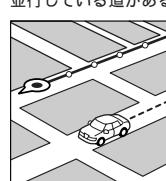
角度の小さなY字路



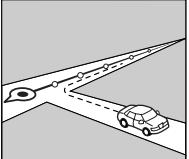
上り下り二車線の場合



並行している道がある

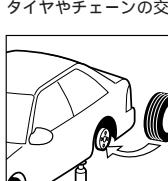


長い直線や緩やかなカーブが続いた直後

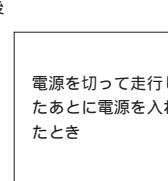


その他

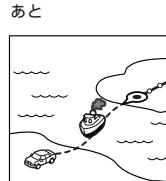
タイヤやチェーンの交換後



電源を切って走行したあとに電源を入れたとき



フェリーなどで移動したあと



GPSアンテナがループキャリアの下に設置しているとき

